

# 「西浜御殿舞楽之図」にみる雅楽の表象

水野僚子

徳川治宝における雅楽の意味と機能

Image of Gagaku Seen in "Nishihama Goten Bugaku No Zu": Meaning and Function of Gagaku of Tokugawa Harutomi

MIZUNO Ryoko

はじめに

- ① 徳川治宝と楽器コレクションの生成
- ② 「西浜御殿舞楽之図」の描写内容
- ③ 「西浜御殿舞楽之図」のイメージにおける雅楽の意味と機能  
おわりに

## 【論文要旨】

本稿は、紀州藩十代藩主徳川治宝の雅楽をめぐる動向に注目し、彼において雅楽という音楽や楽器はいかなる意味をもち、またどのように雅楽と関わっていたのかということをも、「西浜御殿舞楽之図」（和歌山市立博物館蔵）を詳細に分析することによって、考察するものである。

「西浜御殿舞楽之図」（和歌山市立博物館蔵）は、これまで紀州藩の国学者本居大平が著した「楽譚 西浜御殿舞楽之記」の内容と画面内容がおおよそ一致することから、文政六年（一八二三）十月に徳川治宝によって開催された舞楽の様子を描いたものであると考えられてきた。しかし、描かれた内容には「舞楽記」との相違も見られることから、別の日の舞楽の模様を描いた可能性も考えられた。特に季節の描写が異なっていることに注目し、現存する史料を精査した結果、天保十年三月に西浜御殿にて開催された舞楽会を描き出した可能性も考えられることが分かった。

また、細部を詳細に分析することによって、西浜御殿を具体的な「舞楽」のイメージ

ジを用いて、雅な「庭園図」として描くとともに、主従関係が明確である政治的空間として描こうとしていることを指摘した。しかもその庭園のイメージには、古典絵画に見られる公家邸宅を用い、治宝自身の姿も高貴な公家や天皇の姿を重ねることによって、治宝自身を文化的政治的に強大な権力をもった人物として位置づける意図があったのではないかと推測した。これには、西浜御殿隠居後の治宝がおかれた立場が深く関わっている。幕府の意向により、不本意な形で藩主の座を娘婿に譲らなければならなかった治宝にとって、西浜御殿は、まさに「城」に替わる「御所」であった。

つまり本図は、「舞楽」というイメージを使って西浜御殿を雅な場として荘厳し、政治的にも文化的にも中心であること、そして治宝がその場を支配する強大な権力者であることを示そうとした表象として、描かれたイメージであったと考えられる。

【キーワード】西浜御殿舞楽之図、徳川治宝、舞楽、西浜御殿、和琴